

奥鬼怒 オロオソロシ沢遡行～手白沢右俣下降



県内だといつでも行けるからとつい後回しになってしまいがちな奥鬼怒。関東最後の秘境と言われる奥鬼怒に今回初潜入。しかもどんなオソロシい沢なのか・・・

(日 程) 2015年7月25日(土)

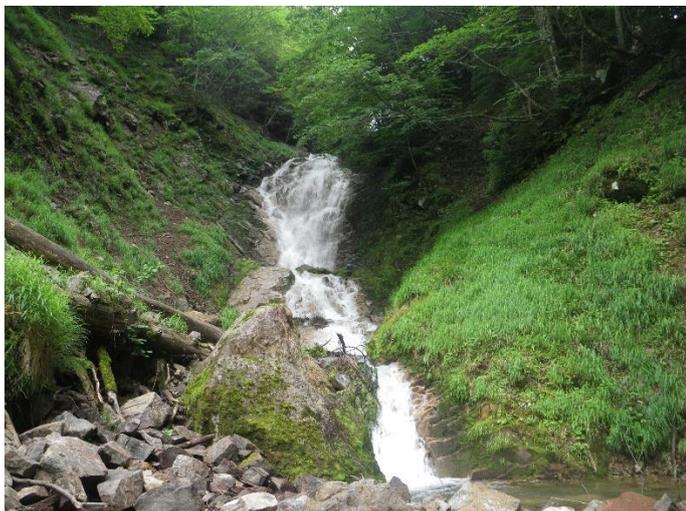
(メンバー) CL・記録 齋藤、大曾根、飯野

(行動時間) 5:55 夫婦淵温泉駐車場→7:55 オロオソロシ沢出合→9:35 枝沢(1620m)→10:40 稜線
→12:10 手白沢右俣大滝上→14:30 手白沢温泉→16:05 夫婦淵温泉駐車場

(天 気) 朝方曇り後晴れ

(行動記録)

オロオソロシ沢へは日光沢温泉から丸沼へ続く道が根名草沢を渡り堰堤の右岸につけられた踏み跡をたどると容易に堰堤を越えられる。堰堤の先で入溪の準備をする。沢に入るとすぐに左岸よりヒナタオソロシ沢が出合う。今回は時間があまりないのでヒナタオソロシの滝の調査はせず先へ進むと程なくしてオロオソロシ沢となる。出合からヒナタオソロシの滝が見えるので間違えることはない。



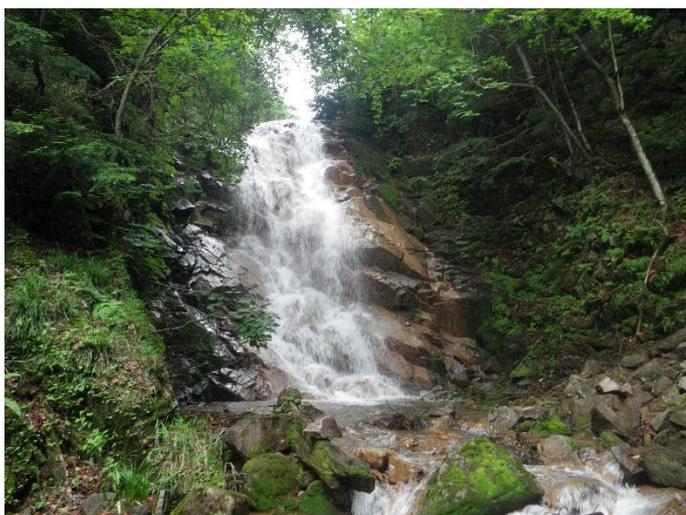
(オロオソロシ沢出合)



(オロオソロシの滝10m)

朝一から落差のある滝なので自分がフリーで登り上からロープを出し、飯野さんはタイブロックで大曾根さんは確保してそれぞれ登ってきてもらう。滝は近くで見ると鉄分が多いのか赤っぽい色をしておりやや滑るのでロープを出した方がよいだろう。沢慣れているメンバーならフリーで問題ない。この滝は水流の右側を登る。

次の12mの滝は見た目は登れなさそうだが近くまで行くと滝の右側が登れるのでここもロープを出して確保する。最初の10mよりは傾斜はないので難しくはない。いずれの滝も左岸から巻くことはできるがオロオソロシの滝を巻いてしまうと後に難しい滝はないのでここは登っておきたいところだ。



(オロオソロシの滝12m)



(滝上のナメ滝)

オロオソロシの滝を抜けるときれいなナメ滝が出てくる。この後ロープを使うようなところはない。この沢自体全然オソロシくなくむしろ癒し系を感じである。この先の約20~30分登ったところに登山道が沢を横断している。注意していないと見落としてしまう感じである。

今回の計画では根名草山の稜線を乗り越えて反対側の手白沢へ下降するので上部まで詰めず1620mあたりの右岸から1:10で出合う枝沢を稜線まで詰めてみることにした。枝沢の出合がなんともしょぼいのもしかしたらだはまりするかも…という期待とともに枝沢を詰める。

最初は100m位上がると早くも水枯れ、あとは適当に沢地形をひろいながら登っていく。恐らく誰も突っ込まないルートなので猛烈なヤブを期待(♪)していましたが期待はずれ、針葉樹の樹林で灌木がまばらな中を獣道をうまく拾いながらいくとあえなく登山道にでてしまった。あがったのは1972mピークより上部の地形図で見るとコルになっているところだが実際には登山道は尾根よりも下のやや西側についている。

予定ではこのコルから手白沢の左俣の支流に下降するのだがなかなかいい下降ポイントが見つからず強引に

登山道から灌木を使いながら一旦下り始める。しかし最初に下り始めたところはその先がガレで大きく落ちておりとても下れない。藪の中でうろうろしていると藪の彼方から「グルルル～」という獣の音が。自分も大曾根さんも飯野さんも「聞こえたよね・・・」ということで一同顔を見合わせる。熊に威嚇され、これが今回の本当のオソロシでした。姿が見えないというのは怖いですね。



(熊に注意・・・)



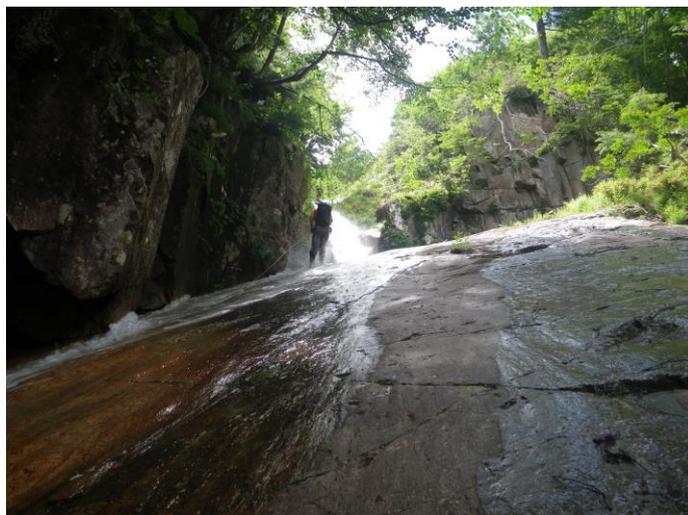
(手白沢右俣の枝沢を下降)

下降は一旦登山道へ戻り、1972mを少し下った笹藪のところから降りる。これがうまくいき手白沢右俣の枝沢から右俣の大滝上のナメに出ることができた。

大滝は5段45mとなっており右岸を大きく巻けば降りられそうだったが50mロープを2本持ってきているので懸垂で下りることとした。上段は少しだけ降り灌木を支点に懸垂する。上部は途中シャワーを浴びて、中段から下は一枚岩で45度位のツルツルの岩で足を滑らせながら下る。残り2～3m位ロープが足りなかったがギリギリクライムダウンできるので良かった。大曾根さん、飯野さんにも続けて降りてきてもらい、最後ロープが引っかからないようにロープを一気に引いて回収できた。なんとも見ごたえのあるまな板のような一枚岩の滝である。



(灌木に捨て綱をセット)



(大滝を懸垂)

この後の下降に出てくる滝はいずれもクライムダウンで下りることができた。手白沢は沢を歩くとすぐに水が濁ってしまう。沢の上部がかなり崩壊が進んでいるようで沢に土砂が流れ込んで体積しているようだ。枝沢は可能だと思いが本流は飲用に適さないだろう。

下降を続け右岸から左俣が出会いもう少し下っていくと右手に手白沢温泉の建物が見えて沢が車道とぶつかったところで遡行終了とした。

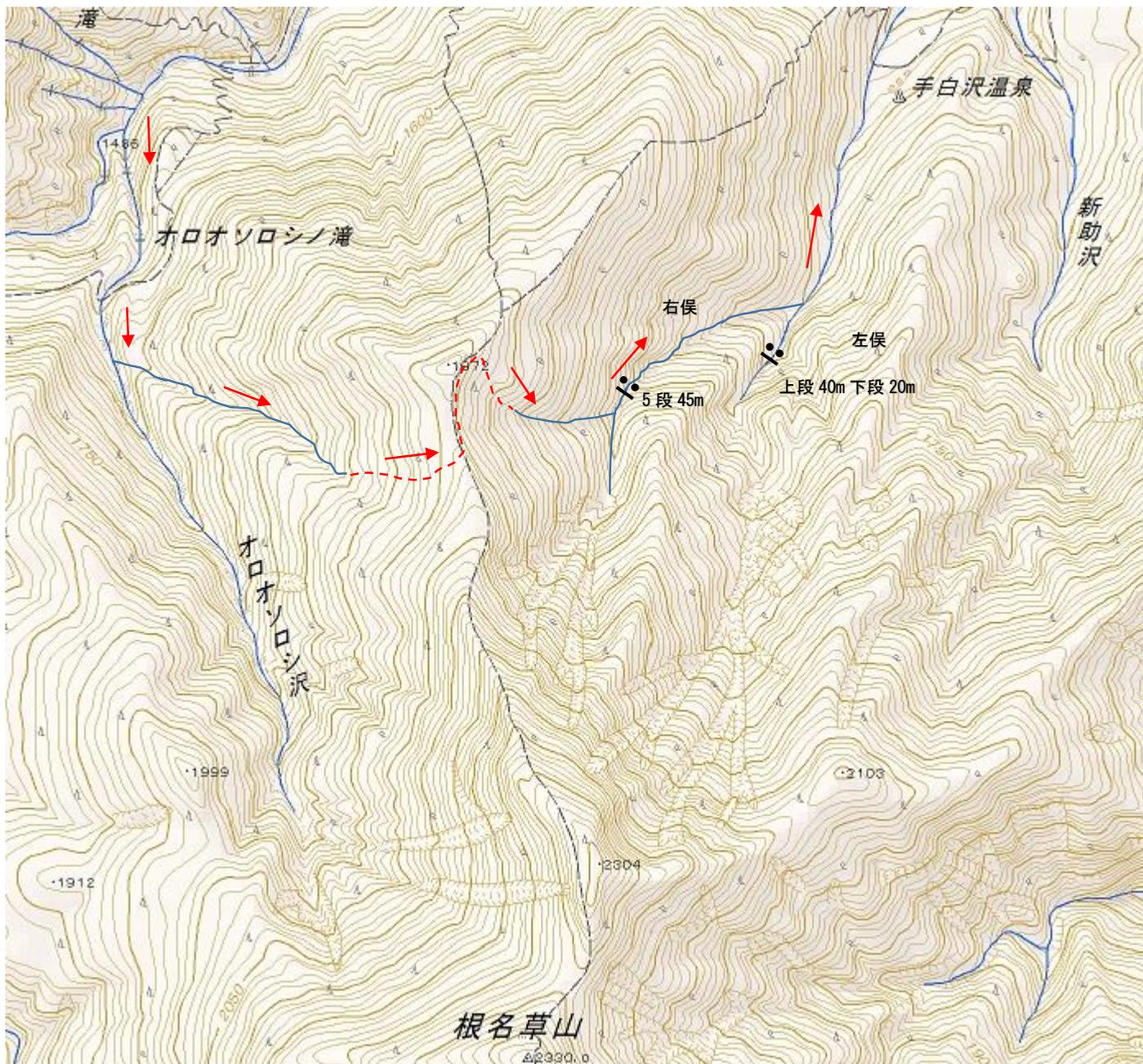
ベンチで荷物をまとめていると手白沢温泉の女将さんらしき人が声を掛けてきたので少し会話をする。どうや

ら沢も昔に比べて荒れてきているようだ。上部の崩壊が原因なのかもしれない。また熊や猿が出るけれども温泉には近寄ってこないとのこと。動物も人馴れしていないのは奥鬼怒がまだまだ山深いからなのだろう。親切にも女将さんは庭の水道を使ってもいいよと言ってくれた。一緒に散歩していたダックスフンドが可愛かった。

あとは来た道に戻るだけだ。日向は日差しが暑く下界は猛暑なのだろうと大曾根さんと飯野さんと話しながら下山した。

今回登ったオロオソロシの滝の意味はオロ（日蔭）の恐ろしい音がする滝とのこと。ヒナタオソロシはヒナタ（日向）にあるからだとのこと。この流域にも赤岩沢、コザ池沢、日光沢などまだまだ興味深い沢がある。今度は沢から鬼怒沼にも登ってみたいと思う。

(ル ー ト)



(参考グレード) オロオソロシ沢 (2級) 手白沢 (2級)

※オロオソロシ沢の遡行だけなら30mロープで十分

※手白沢の大滝を下降するなら50mロープが2本あったほうがよい

※沢靴はラバーソールよりもフェルトの方がよい